

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**埼玉県 飯能市立美杉台中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実施内容

■期 日 : 2019年10月30日 (水)

■ク ラ ス : 2年B組 (29名)

■オリンピアン : 村上 佳宏 先生 (近代五種) 【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、近代五種について説明。今日はオリンピックバリューについて皆と勉強していきたいと目的を伝える。運動の時間を通して、「元気よく」「ケガをしない」ことを約束し、準備体操へ移る。
- ・ストレッチ、ダイナミックストレッチ、ナンバーコールを行う。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・レーザーラン(紙コップ積み)を全3回実施。各班紙コップ10個を積み上げた段数とゴールした順位のポイント合計点を競う。2回目、3回目は、コップを1個ずつ増やした。

## 4. まとめ



- ・今日は、近代五種を体験してほしかったので、レーザーランを模した運動に取り組んでもらった。次の座学の時間では、オリンピックバリューについて詳しく説明すると予告し、運動の時間に感じたことや作戦等も振りかえるので覚えておいてほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・村上先生が競技を始めたきっかけを紹介し、経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、挑戦する」、「フレンドシップ＝友情、仲間」、「リスペクト＝敬意／尊重、感謝、思いやり」と説明。

3. グループワーク



発問：運動の時間を振り返り、考えたり実践したことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

「失敗を恐れずに高く積む作戦に挑戦した」「正確に素早く安定」等(エクセレンス)

「次の人が積みやすいように工夫した」「仲間を信じる」「協力した」等(フレンドシップ)

「先生に感謝」「アドバイスし合えた」「作戦タイムの時にみんなの意見を尊重できた」等(リスペクト)

4. まとめ



・村上先生は「縁」という言葉を大事にしている、皆が日常生活を送れるのも家族や友達等様々な人に支えられているからであり、周りの人への感謝の気持ちを忘れないでほしい。オリンピックバリューは日常生活にもつながっており、オリンピックバリューを意識して豊かな人生を歩んでほしいと伝える。

・東京2020大会では埼玉県朝霞市で射撃の試合が行われる。近代五種もぜひ応援してほしいと伝え、授業終了。

# 実施内容

■期 日 : 2019年10月30日 (水)

■ク ラ ス : 2年A組 (29名)、2年C組 (29名)

■オリンピアン : 三井 梨紗子 先生 (水泳/シンクロナイズドスイミング ※現:水泳/アーティスティックスイミング) 【出場オリンピック/ロンドン大会、リオデジャネイロ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、運動と座学の2時間を通じてオリンピックバリューについて伝えたいと授業の目的を確認。運動の時間は「明るく」「元気に」「全力で」取り組んでほしいと伝え、準備体操へ移る。
- ・音楽に合わせてストレッチと、じゃんけん勝ち抜けを実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・8の字跳びを全3回実施。2班ずつ3チームに分かれて90秒間に跳ぶことができた合計回数を競い、引っかかっても続きから数えることとした。各回終了後に作戦タイムを設け、回数を増やす作戦を各チームで話し合う。

## 4. まとめ



- ・最後まで全力で頑張ってくれていたし、声を掛け合いながら楽しく取り組んでいたと伝える。
- ・次の座学の時間では、三井先生の経験も踏まえてオリンピックバリューの話をするので、運動の時間に取り組んだことを覚えておいてほしいと話し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・リオデジャネイロ大会の映像を見せながら競技紹介。
- ・三井先生の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝「卓越、ベストを尽くす」、「フレンドシップ＝友情、お互いを理解する」、「リスペクト＝敬意／尊重、フェアプレー、自身を取り巻く環境への配慮・感謝」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返り、自分や同じグループの人のどのような行動がオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。
- 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
- 「全てのことに對して全力で取り組む」「最後まであきらめずに跳べた」「目標を高く持ち、結果を出すための作戦を考えた」等(エクセレンス)
  - 「1人ひとりの良さを活かす」「喜びを共有した」「プラス発言を増やした」等(フレンドシップ)
  - 「個性を生かす」「お互いに声を掛け合った」「相手の記録を目標にして取り組んだ」「話し合って決めた作戦を守った」等(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは皆の日常生活の中にもあるので、オリンピック教室で学んだことを糧に、より高いレベルで挑戦してほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真  
2年A組



2年B組





■ 集合写真  
2年C組



■ 記念品贈呈  
2年A組



2年B組



2年C組



■ 修了証贈呈

